

分担研究報告書

外部委託マネジメントチェックリストの開発

研究分担者 鳩野 洋子

外部委託マネジメントチェックリストの開発

研究分担者 鳩野 洋子 九州大学大学院医学研究院保健学部門 教授

研究要旨:

質の高い外部委託を行うために、委託元である自治体の保健師等の保健医療専門職が行うべき事項を整理したマネジメント項目を整理することを目的とした。

開発にあたっては、3段階の手順を踏んだ。第一段階として、機縁法で抽出した6自治体の外部委託状況に関するインタビューの中から、委託事業の質の確保のために重要と思われる項目を抽出、整理して40項目のマネジメント項目原案を作成した。第二段階として、インタビュー対象者に郵送法により項目の妥当性を尋ね、回答に基づいて研究班内で再度検討し、38項目に修正した。第三段階では、修正した項目と、研究班で整理したそのことを実施するねらいとその理由に関する意見を問うグループインタビューを実施した。インタビュー結果に基づき、再度修正を行い、最終的に委託を検討する時間軸順に、【委託の検討および決定】7項目、【委託方法・委託先の検討】6項目、【仕様書・契約書の作成】3項目、【契約締結から事業開始までの委託先との調整】4項目、【契約締結から事業開始までの自治体内での準備】3項目、【委託事業者によるサービス提供期のモニタリング】4項目、【委託事業者によるサービス提供終了時の評価】6項目、【体制】5項目、全38項目からなるチェックリストを作成した。

チェックリストは、その作成プロセスから一定の内容妥当性を有していると考えられた。今後は本チェックリストの活用が質の高い委託のアウトカムに寄与するかの検証、内容の保健専門職への普及が課題である。

研究協力者

- | | |
|--------|-------------------------|
| 森 晃爾 | (産業医科大学産業生態科学研究所 教授) |
| 曽根 智史 | (国立保健医療科学院 企画調整主幹) |
| 永田 昌子 | (産業医科大学産業医実務研修センター 助教) |
| 前野 有佳里 | (九州大学医学研究院保健学部門 講師) |
| 柴田 喜幸 | (産業医科大学産業医実務研修センター 准教授) |
| 小橋 正樹 | (産業医科大学産業医実務研修センター 修練医) |

A . 目的

市町村が提供する保健事業は租税により提供されており、外部委託であってもその提供の責任は自治体にあるため、その提供プロセスの管理を行う能力が自治体に求められている¹⁾。

しかし、保健医療専門職は、基礎教育において直接的なサービス提供方法に関する教育は受けているが、外部委託のマネジメントに関する教育は全く受けていない。

いくつかの市町村では外部委託事業に関して意識的な質の管理を実施している状況もあるが²⁾、多くの市町村では保健医療専門職が質の高い委託方法を模索しつつ、外部委託を実施している状況が想定される。しかし、この状況は住民に対し質の高い保健サービスを提供し、住民の健康の維持・向上に寄与するという市町村の保健サービスの基本的な目的を果たす上で、望ましい状況ではない。

そこで本研究では、質の高い外部託託を行うために委託元である自治体の保健医療専門職が実施すべき事項を明らかにしてそれが広く活用されるよう、チェックリストとして整理することを目的とした。

B . 方法

開発は三段階を経て実施した。

【第一段階】

調査方法

半構造化インタビュー調査

調査対象・内容

有識者より質の高い委託を実施し

ていると推薦された自治体に電話で打診を行った結果、委託のプロセスに対しての工夫が語られ、かつインタビューの承諾が得られた6自治体を対象とした。

分析方法

書き起こした逐語録から、質の高い委託を実施するために行っていると考えられる場面を抽出し、その内容を要約し、整理した。整理にあたっては、委託のプロセスを考慮し、計画段階、実施段階、評価段階、および体制に分類した。整理にあたっては先行研究³⁾を参考にした。

倫理的配慮

インタビューは、産業医科大学倫理審査委員会の承認を受けて実施した。インタビューにあたっては研究目的、個人情報保護の方法、研究の中断の権利、研究の公表の方法について、口頭で説明を行うとともに、承諾書へのサインを得た。

【第二段階】

調査方法

質問紙調査

調査対象

第一段階でのインタビュー対象者

調査内容

第一段階で整理した項目について、項目の妥当性について「妥当」「どちらかといえば妥当」「どちらかといえば妥当でない」「妥当でない」の4段

階で尋ねるとともに、それぞれの項目、および不足している項目に関して、自由記載で意見を求めた。

分析方法

4 件法の回答数をカウントするとともに自由記載について研究班員で検討を繰り返し、修正を行った。

【第三段階】

調査方法

グループインタビュー

調査対象・内容

平成 25 年度、26 年度に外部委託の良好実践事例としてヒアリングを行った自治体対象者 4 名、過去、自治体に所属していた際に外部委託を行った経験を有する有識者 1 名、計 5 名である。

参加者にはマネジメント項目と、それぞれの項目のねらいとなぜそれを実施する必要があるのかを記載したものを事前に送付した上で、グループインタビューに参加してもらった。

インタビューでは、

- ・ 項目の可不足
- ・ 項目の構成
- ・ 記載事項の内容や表現

に関して、自由に意見を語ってもらった。

分析方法

書き起こした逐語録から、修正が必要と言われた点に関して抽出し、意見に対して研究班内で検討し、修正した。

倫理的配慮

インタビューは、産業医科大学倫理審査委員会の承認を受けて実施した。

インタビューにあたっては研究目的、個人情報の保護の方法、研究の中断の権利、研究の公表の方法について、口頭で説明を行うとともに、承諾書へのサインを得た。

C. 結果

【第一段階】

6 自治体から得られたインタビューから、計画段階 19 項目(うち、競争入札の場合のみ回答する項目 3 項目、随意契約の場合のみ回答する項目 5 項目)、実施段階 11 項目、評価段階 5 項目、体制 5 項目の計 40 項目が整理され、仮チェックリスト項目とした。

【第二段階】

わかりにくいとされた項目の修正、削除や、項目を置く場所を移す等の一般的な文言の修正を行い、最終的に 38 項目のチェックリストを作成した。

【第三段階】

インタビューで得られた、ターゲットの明明確化、チェックリストの語尾、項目の可不足、計画段階の項目の多さ、項目の記載内容のレベルが揃っていないこと等の意見に基づき、最終的に委託を検討する時間軸順に、【委託の検討および決定】7 項目、【委託方法・委託先の検討】6 項目、【仕様書・契約書の作成】3 項目、【契約締結から事業開始までの委託先との調整】4 項目、【契約締結から事業開始までの自治体内での準備】3 項目、【委託事業者によるサービス提供期のモニタリング】4 項目、【委託事

業者に、よるサービス提供終了時の評価]6項目、[体制]5項目、全38項目からなるチェックリストを作成した。

D. 考察

今回、質の高い委託を行うためのマネジメントのためのチェックリストを開発した。チェックリストは、3段階の手順を経て作成していることから、一定の内容妥当性を有していると考えられる。ただし、妥当性をより高めるためには、保健医療専門職に試用してもらい、その有用性を確認することが必要である。

しかし、妥当性の確認にはまだ課題はあるが、委託は広く行われているにもかかわらず、このようなマネジメントの展開方法を具体的に示したものが存在しておいなかったことを考慮すると、本チェックリストが提示されたことは、委託事業の質の確保の上で意義を有すると考えられる。今後は本チェックリストの保健医療従事者への周知が課題である。

E. 結論

- 1 38項目からなる質の高い委託を行うためのチェックリストを開発した。
- 2 本チェックリストは、一定の内容妥当性を有していると考えられた。
- 3 今後は、本チェックリストが保健医療従事者に広く周知されることが望まれる。

F. 引用文献

- 1) 厚生労働省:地域における保健師の保健活動に関する検討会.平成24年度地域保健総合推進事業 地域における保健師の保健活動に関する検討会報告書,2013.
- 2)清水京子、大谷直美、西原睦子、他:母子保健業務の委託の実際:保健師ジャーナル,61(10)918-923,2005.
- 3)日本看護協会.地域保健サービス提供体制に関する報告書」(平成16年度 地域保健サービス提供体制に関する検討小委員会 2005

G. 研究発表

- ・鳩野洋子、森晃爾、曾根智史、前野有佳里.保健事業外部委託のマネジメントと保健師の役割 .第3回日本公衆衛生看護学会ワークショップ.2015年1月11日.